

予算特別委員会

【区の予算編成の基本的考え方】

- * 杉並区総合計画・実行計画の取組に要する経費
- * 区民のいのちと暮らしを守りぬく
- * 将来にわたって安定的に区民福祉の向上を図るための持続可能な財政運営の確保

【ブランシャ－明日香の主な質問内容】

- * 全区立施設の再エネ化 * 建築物再生可能エネルギー利用促進区域制度
- * 気候区民会議 * 気候危機対策推進本部の充実化、透明化など

杉並区の2024年度予算に盛り込まれた主な事業

区立小中学校等の学校給食の無償化	18億9321万円
国立・私立等の小中学校への給食費相当額の給付金支給	4億8384万円
子どもワークショップの開催など子どもの権利擁護の推進	506万円
震災時の備蓄品の充実、感震ブレーカーの設置促進	7204万円
グリーンインフラを活用した雨水流出抑制対策	9516万円
本庁舎で調達する電力を100%再生可能エネルギーへ	1億 623万円
気候区民会議の開催	1335万円
会計年度任用職員給与の見直し	10億4460万円

ブランシャ－明日香は
全ての款（項目）に
ゼロカーボンの視点
を横串にして質問！

2024年度の当初予算

一般会計予算は、前年度より
121億8200万円（5.8%）増の
2228億9200万円

Pick up!

参加型予算をモデル実施！

今年度モデル実施した、区民の意見を反映する「参加型予算」は、災害時に活用できる用具の公園設置など3事業で計2663万円を計上。

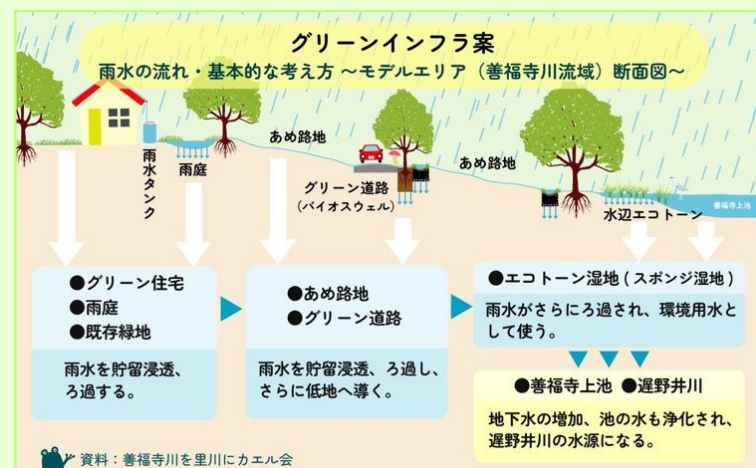
公契約条例で時給引き上げ！

杉並区は4月から、公契約条例に基づく時給の下限を、約8%引き上げて1231円にします。給食調理員や警備員など、区の委託や指定管理で働く人の時給が上がります。

ワード解説

▶グリーンインフラ（*2）（下図参照）

自然環境の機能を様々な社会課題の解決に活用しようとする考え方。例としては植樹によるヒートアイランド現象の抑制、棚田保全による土砂流出の防止、「雨庭」による水害対策など。



▶気候区民会議（*1）

無作為抽出により選ばれた参加者が、有識者から情報提供を受けながら、自由な意見で議論を重ねる会議です。区民の意識醸成や行動変容を促すとともに、会議で出た意見提案を区の施策に生かしていくことを目的とします。近年、国際的、全国的に広がり、日本でも10都市以上で開催されています。

▶ZEB（ゼブ）（*3）

「Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）」の略語。快適な室内環境を保ちながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを旨とした建物のこと。

▶ZEH（ゼッチ）（*4）

「Net Zero Energy House（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）」の略語。ZEBがビル、庁舎、学校、工場などの大型建物であるのに対し、ZEHは一般住宅です。

▶LCCM（エル・シー・シー・エム）住宅（*5）

「Life Cycle Carbon Minus（ライフ・サイクル・カーボン・マイナス）」住宅とは、ZEHの機能に加え、建設時や廃棄時のCO2排出量にも配慮した住宅です。

区政報告会

- 4/11(木) 19:00-20:30
- 4/16(火) 19:00-20:30

カフェ・カワセミピレットにて
杉並区善福寺1-30-9 ※予約不要

ブランシャ－明日香

2023年5月より杉並区議会議員
緑の党グリーンズジャパン所属

長崎県出身。カナダオンタリオ州立ヨーク大学社会学部卒業。
西荻窪にてカフェ・カワセミピレットを経営。

〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-30-9 ☎090-8487-5406（事務局）



公式サイト

カワセミ通信は、再生紙で印刷しています。



ブランシャ－明日香

杉並区議会議員 緑の党グリーンズジャパン

カワセミ通信

VOL.3 (2024.3.22発行)

初年度末スペシャル号

2024年春から、数々のゼロカーボン事業がスタートします！

2023年度に引き続き、2024年春から岸本区政によって環境政策、気候変動対策がさらに実現。新人議員、1人会派「緑の党グリーンズジャパン」のブランシャ－明日香の政策提言も着実に反映されています。

3月から

気候区民会議

ワード解説（*1）

気候危機は「自分ごと」。行政と住民が一体となって社会システムを変えていこう！
区民の参画による、杉並区主催の「気候区民会議」開催中。

- 杉並区HP▼ チラシ▼
- 第1回：3/20（水・祝）9:00～12:00
第2回：4/20（土）13:30～17:30
第3回：5/18（土）13:30～16:30
第4回目以降は区HPにて（右側QRコード）



区役所本庁舎の再エネ100%化

本庁舎の電力調達再生可能エネルギー率が100%に！
昨年9月の決算特別委員会での当会派の質問以降、杉並区は16%だった本庁舎の再エネ率を100%に引き上げることに踏み切りました。（2024年11月より）



学校教室の断熱化

9月のブランシャ－明日香の一般質問で、区内の小中学校の最上階が31度以上あることを指摘。省エネと子どもの学ぶ環境改善のため、区立小中学校の教室断熱改修を求めました。結果、9教室に対し、2024年夏までに天井の断熱改修を行う方針を打ち出しました。



リユース容器の活用助成制度

ワンウェイプラスチック使用削減に向けた取り組みに 10,463千円！

- 1) イベント向けリユース容器貸し出し
- 2) 事業者向け容器活用支援助成
- 3) プラ使用製品廃棄物の新たな分別回収



グリーンインフラの整備・促進

ワード解説（*2）

「グリーンインフラ等による雨水流出抑制対策の強化」に9,516万円！

- 1) 目標や実績の数値化が重要なことから、東京都と定量的評価方法を協議する
- 2) 面的な効果などを検証していく都の“モデル地域”の選定に手を挙げる
- 3) 専門家や学術機関等と連携し、善福寺川の流域治水やG Iの調査研究をする

2023年

ブランチャー明日香の議会活動

2023年5月から新人議員として杉並区議会の一員となりました。48人の議員のうち、男性・女性比率（性別非公開1人）が半数のパリティ議会を達成し、新人議員が15人（31%）も当選した新しい構成でスタート！

ブランチャー明日香は1人会派「緑の党グリーンズジャパン」として、毎回定例会での一般質問や委員会質問に立ちました。脱炭素社会実現に向けて、基礎自治体で出来ることをスピード感を持って推進するよう、区政に要望し、具体的な提案を続けています。



決算特別委員会

2023年度の会計が正しく使われたかどうかを審議する年度最大の大切な委員会。ブランチャー明日香は「本庁舎の再エネ100%化」は可能なはず、という提案をはじめ、区にはゼロカーボン政策をスピード感を持って取り組むよう要望し、「対話の岸本区政」の決算決議に賛成しました。

2023年度 行政視察

他自治体の脱炭素先行事例を学ぶため現地訪問

久留米市環境部 庁舎にて



10月19日に都市環境委員会行政視察で福岡県久留米市に伺いました。環境部庁舎のZEB*改修及びZEB普及の取り組みを視察。縦割りを越えたZEBチームの連携には学ぶところ大でした。翌日は春日市エコワークス(株)のZEH*住宅と更に高水準のLCCM*住宅を見学。杉並区も区立施設の再エネ化をどんどん進めてほしいです。

- 7,8月 中央区ゼロカーボン機運醸成事業
- 8月 京都市脱炭素先行地域、鳥取県健康省エネ住宅NE-ST 鳥取環境大学Race to Zero
- 12月 外環トンネル視察（道路交通対策特別委員会）
- 1月 世田谷区空き家対策事業、
- 3月 葛飾区環境部「ゼロカーボンシティ特別区」

ZEB (*3)、ZEH (*4)、LCCM (*5) : ワード解説

一般質問のテーマ

第2回定例会 会期 5月31日～6月19日

- 環境都市としてリーダーシップをとるとは
- ごみ対策（プラごみ、生ごみ、食品ロス）
- ゼロカーボンシティの「見える化」
- 「脱炭素先行地域」への応募 質疑の動画▼
- 気候区民会議
- 建物の断熱化、省エネ化

第3回定例会 会期 9月11日～10月16日

- 学校教室の断熱化 質疑の動画▼
- プラごみ削減に向けたリユース容器の活用
- 西荻窪のケヤキ問題

第4回定例会 会期 11月15日～12月6日

【脱炭素社会実現に向けて】

- ZEH住宅の普及 質疑の動画▼
- 区の施設のZEB化
- 地球温暖化対策実行計画
- 気候危機対策推進本部
- 脱炭素先行地域

2024年

第一回定例会が終わりました

※会期 2月9日～3月18日



一般質問 【未来世代へどんな善福寺川とその流域をのこしたいか】

Q 都はモデル地区を選定し、面的にグリーンインフラを導入し効果を測定する提案もある。善福寺川流域でモデル地域に手を上げては。雨庭展示場エリアの設置等、産・官・学・民で協力し事業化の推進を求める。

A グリーンインフラを区民と共に考え進める。都のモデル地域の実施に手を挙げ、地域住民に多面的な効果を知ってもらい、自分事に捉えて頂けるよう取り組む。

Q グリーンインフラの効果を定量化する知識と情報、調査が必要。学術機関と連携協定を結び、杉並を都市での流域治水やグリーンインフラの調査研究を進める拠点とするよう検討を。

A 専門家や学術機関などに関わり、現地作業を通じて善福寺川の流域治水やグリーンインフラの調査研究が進むよう取り組む。

Q 未来世代へどのような善福寺川とその流域を残したいか。

A 善福寺川「水鳥の棲む水辺」創出事業や流域治水の考えに基づくグリーンインフラなどの施策を区民と共に考え、議論を行いながら一緒に進めていきたい。

東京都は善福寺川上流調節池という5.8kmの治水工事の都市計画を決定。周辺住民からは、シールド工法によるトンネル掘削のリスクや、生物多様性の損失、公園や民家、日常生活への影響について、都が十分な説明と合意形成を得ていないとし、見直しを求める声があがっています。

区HP「善福寺川流域の浸水対策について」▲

質疑の動画▼



質疑の動画▼



都市環境委員会

- 議案第9号「杉並区営住宅条例の一部を改正する条例」→賛成
- 議案第27号「杉並区立荻外荘公園外2公園の指定管理者の指定について」→賛成 ※コラム1



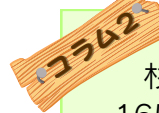
▶揺れた議案第27号

「荻窪三庭園指定管理者制度の選定」

2/22都市環境委員会では、選定委員と業者間の利害関係、採点の仕方などに疑義があり、長時間の質疑が続きました。区からは改善を目指すという反省の答弁があり、区長は今事業が指定管理者制度との新しいパートナーシップのあり方を模索する大きな挑戦であり、選定基準に雇用、ジェンダー平等、地域との連携、労働条件を組みこんだ点を強調。審議の結果、委員会・本会議共に可決。ブランチャー明日香は、区に透明性を徹底し、まず地域住民との信頼関係を気付くことを最重要課題に据えるよう、強く要望し賛成しました。

道路交通対策特別委員会

- 外環道の進捗状況について ※コラム2
- AI 技術を活用した南北バス「すぎ丸」乗降調査実証実験の結果について
- 鉄道連続立体交差事業及び沿線まちづくりの状況について
- 交通事故の状況について



▶3/1すぎ丸EVバスのお披露目式!

杉並区にEVバスがやってきました（けやき路線に1台）。夜間に2時間車庫でチャージして165km走行。CO2を排出せず環境に優しいだけでなく、災害時には非常用電源・冷暖房完備の避難所となり得ます。通常時は振動、騒音、給油の手間がなくドライバーの労働環境改善にも貢献。今後は充電元の電気を再エネ100%に切り替え、バスの上や駐車場の屋根にソーラーパネルを搭載するなど、更にゼロカーボン度の向上を求めます。



※第一回定例会「予算特別委員会」は次ページ